

2023年5月31日



2023年3月期 決算説明会

 日本パーカライジング株式会社
NIHON PARKERIZING CO.,LTD.

目次

■ 決算概要

- 連結損益計算書
- 営業利益の増減要因
- 連結業績の推移
- 連結業績の四半期推移
- 各セグメントの事業内容と売上構成割合
- 各セグメントの所在地別損益
- 薬品セグメント売上高の所在地別割合
- 営業外損益・特別損益
- 設備投資の状況
- 研究開発の状況
- 連結貸借対照表
- 連結キャッシュ・フロー
- 2024年3月期業績予想
- 配当方針と株主還元
- 資本効率と企業価値の向上

■ 中期経営計画の進捗状況と達成に向けた取り組み

- 第4次グループ中期経営計画の進捗状況
- Vision2030実現に向けた基盤作り
- 新規分野開拓に向けた研究開発の強化
- 海外事業の拡大とグローバル研究開発体制の強化
- 環境対応製品の開発・販売
- 設備投資計画
- 当社グループの重要課題への取り組み

(参考資料)

- 業績ハイライト
- 主要関係会社一覧

2023年3月期 決算概要

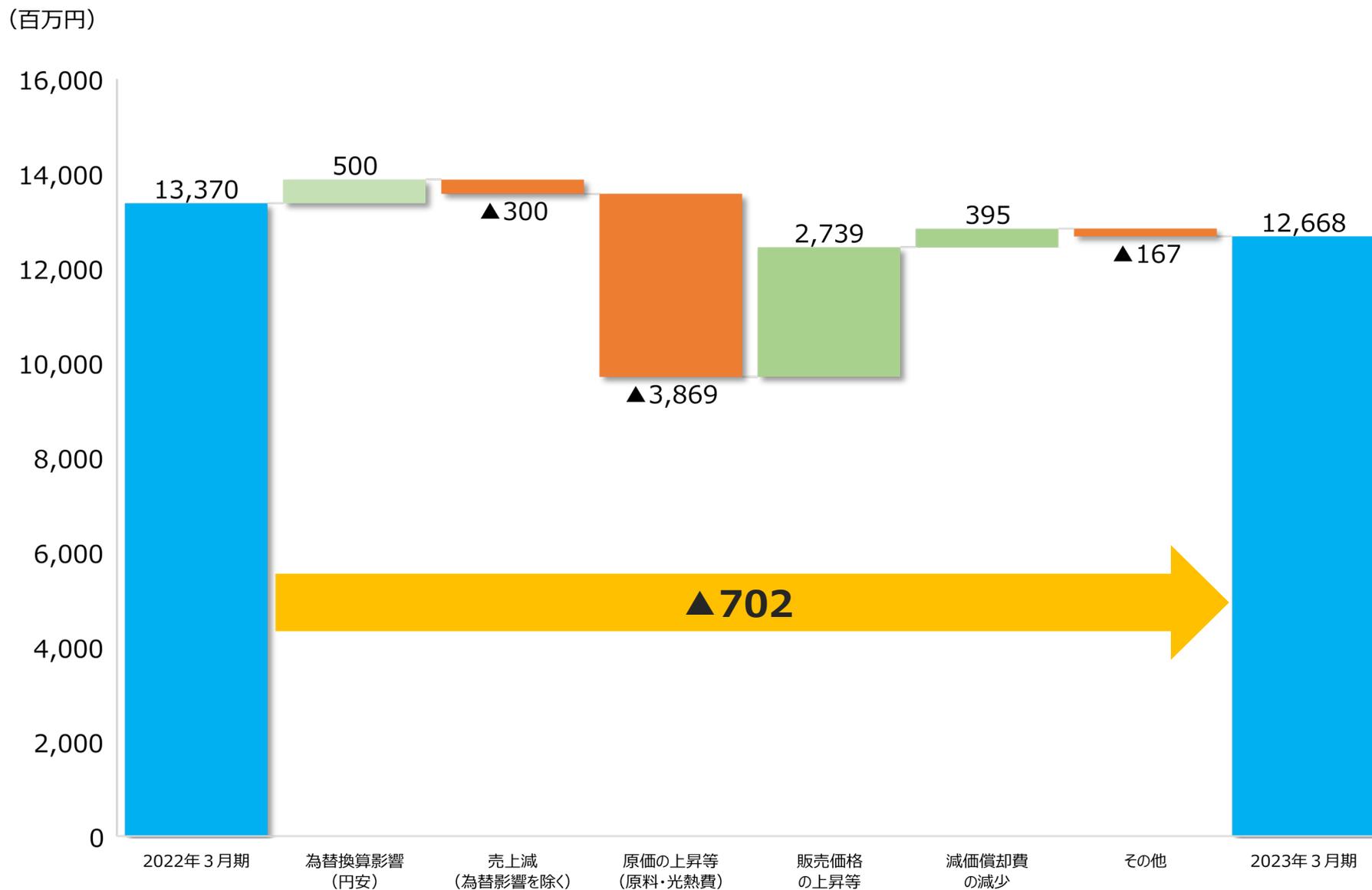
連結損益計算書

(単位：百万円)

項目	2022/3	2023/3	増減	増減率	
売上高	117,752	119,177	+1,424	+1.2%	経済・社会活動の正常化が進み、概ね回復基調で推移
営業利益	13,370	12,668	-702	-5.3%	原料価格の高騰などにより売上総利益率が低下
経常利益	17,003	16,625	-378	-2.2%	営業外収益 4,685百万円 営業外費用 728百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	9,046	9,973	+926	+10.2%	特別利益 945百万円 特別損失 942百万円
1株当たり利益	76.93円	86.10円	-	-	
総資産経常利益率	7.6%	7.1%	-	-	
自己資本利益率 (ROE)	5.8%	6.1%	-	-	
期中平均レート (USD)	109.80円	131.43円	-	-	

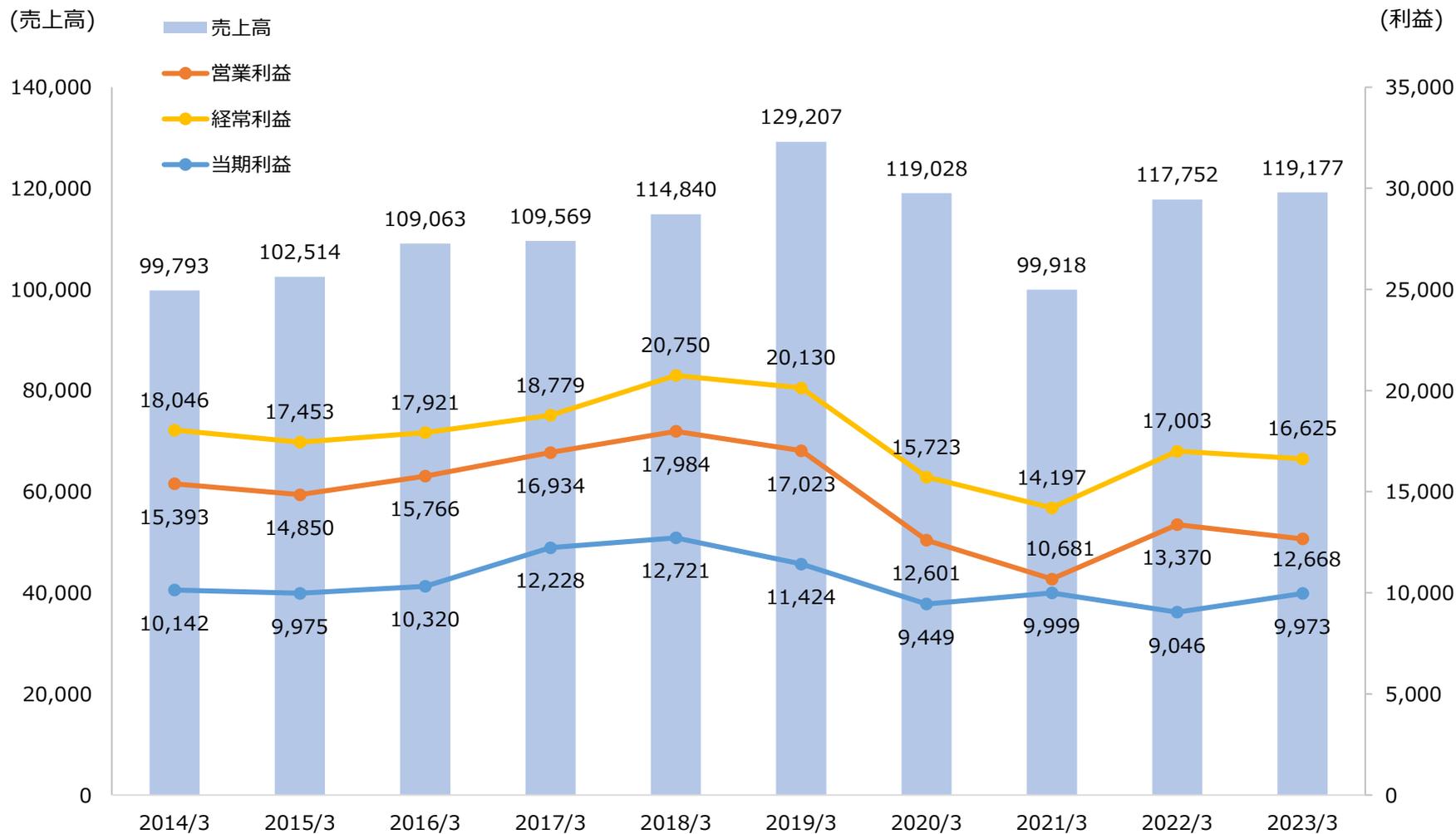
- 海外売上高比率 47.0% (※日本からの輸出を含む)
- 為替換算による影響：売上高 約+6,455百万円、営業利益 約+500百万円

営業利益の増減要因



連結業績の推移

(単位：百万円)

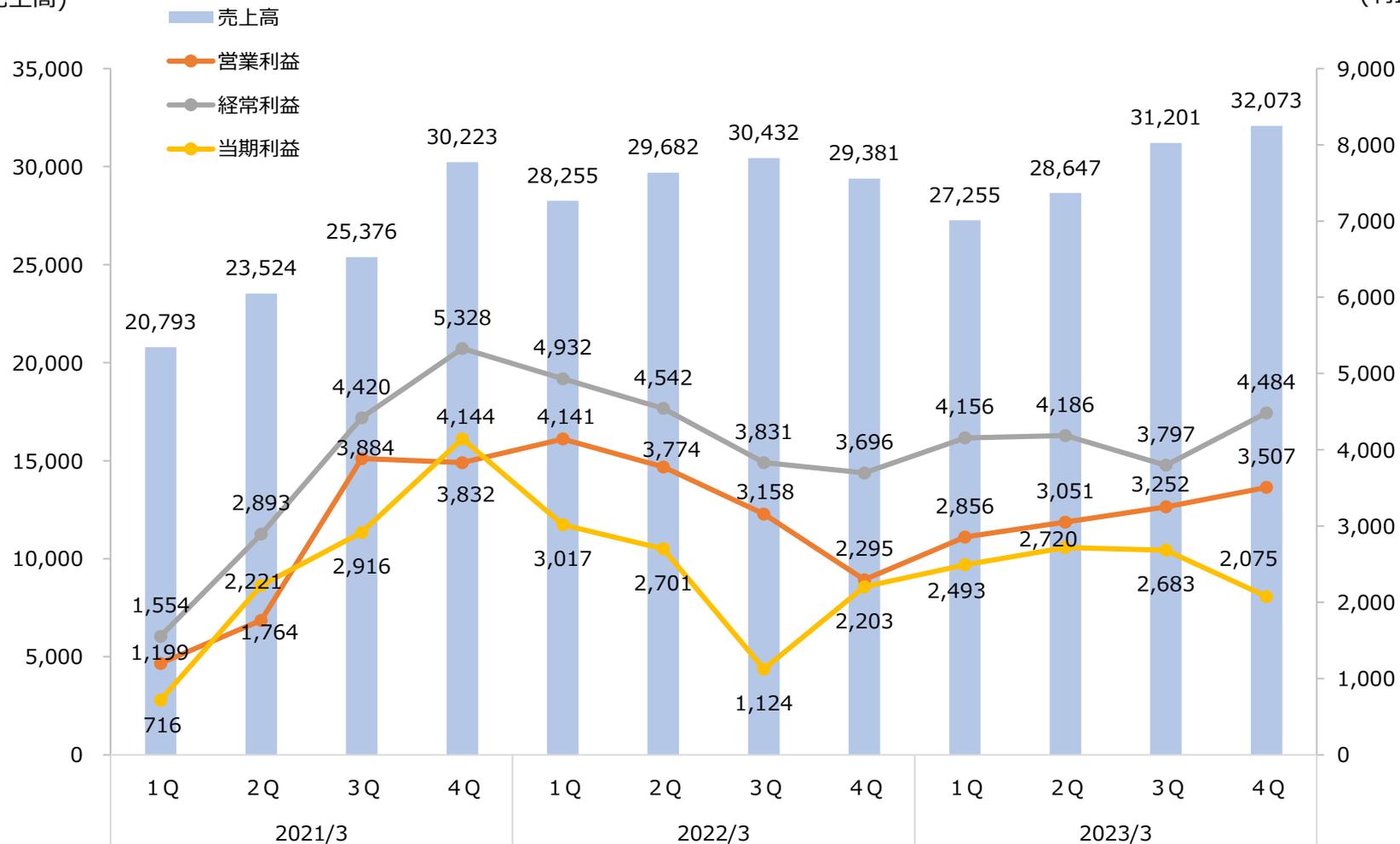


連結業績の四半期推移

(単位：百万円)

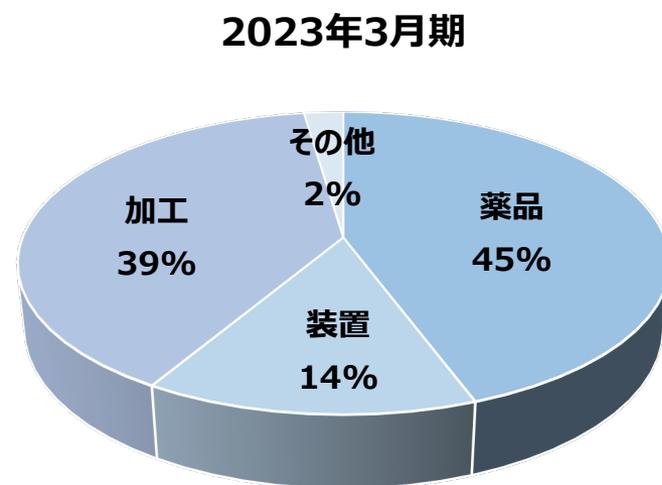
(売上高)

(利益)



各セグメントの事業内容と売上構成割合

セグメント	主な事業内容
薬品	<ul style="list-style-type: none"> ● 塗装下地 ● 金属防錆 ● 潤滑被膜 ● 圧延油 ● 防錆油 ● 無電解Niめっき液 ● その他機能性被膜薬剤
装置	<ul style="list-style-type: none"> ● 前処理装置、電着装置 ● 排水処理装置 ● 塗装装置・ロボット ● 塗装ブース・空調設備 ● 粉体塗装 ● コンベヤシステム ● その他規格品・消耗品
加工	<ul style="list-style-type: none"> ● 化成処理 ● 塩浴軟窒化 ● ガス浸炭・浸炭窒化 ● ガス軟窒化 ● 無電解Niめっき ● 固体潤滑 ● その他加工処理
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物のメンテナンス工事 ● 医療機器 ● その他



連結売上高 119,177百万円

各セグメントの所在地別損益

(単位：百万円)

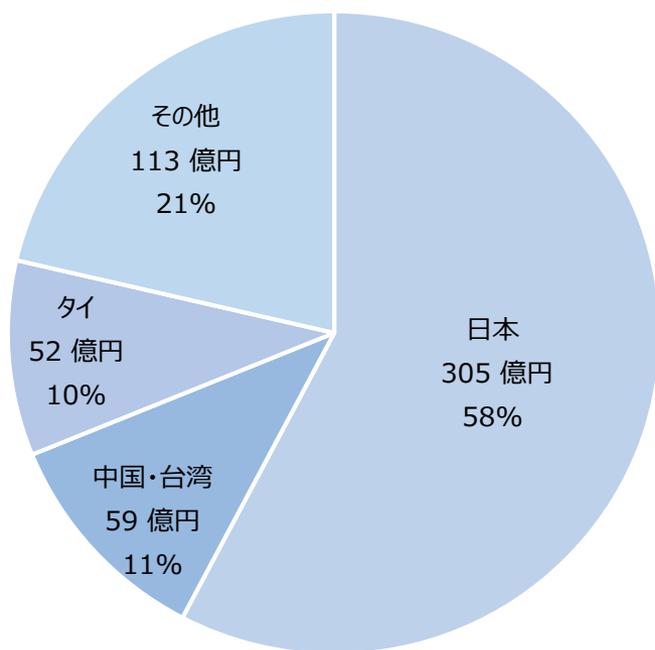
		売上高			営業利益		
		2022/3	2023/3	増減	2022/3	2023/3	増減
薬	日本	28,519	30,529	+2,009	3,862	3,480	-381
	アジア	17,174	21,481	+4,307	2,910	3,268	+357
	欧米	937	899	-37	246	227	-18
	セグメント間売上等	1,060	1,308	+248	637	695	+58
	薬品	47,691	54,219	+6,528	7,656	7,672	+15
装置	日本	8,470	5,885	-2,585	-15	-334	-318
	アジア	14,738	9,936	-4,802	120	-21	-142
	欧米	704	969	+265	-173	32	+206
	セグメント間売上等	659	608	-51	220	315	+94
	装置	24,574	17,399	-7,175	151	-8	-160
加工	日本	26,456	25,848	-608	5,352	4,351	-1,001
	アジア	11,612	12,700	+1,087	2,067	1,981	-85
	欧米	6,750	8,194	+1,443	-852	-459	+393
	セグメント間売上等	36	49	+13	214	212	-1
	加工	44,856	46,792	+1,936	6,781	6,086	-695
その他	2,457	2,791	+333	29	113	+83	
調整	-1,825	-2,024	-198	-1,249	-1,196	+53	
合計	117,752	119,177	+1,424	13,370	12,668	-702	

(注) 各セグメントの売上高及び営業利益は、セグメント間の内部売上高及び振替高を含みます。

- 社会経済活動の正常化が進展したことにより緩やかな回復基調で推移し、装置セグメント以外の売上高は増加。装置セグメントでは、前期に大型物件の検収があったことから、当期は売上高が減少。
- 原料価格やエネルギー価格の上昇などの影響により、営業利益合計は前年比702百万円の減少。

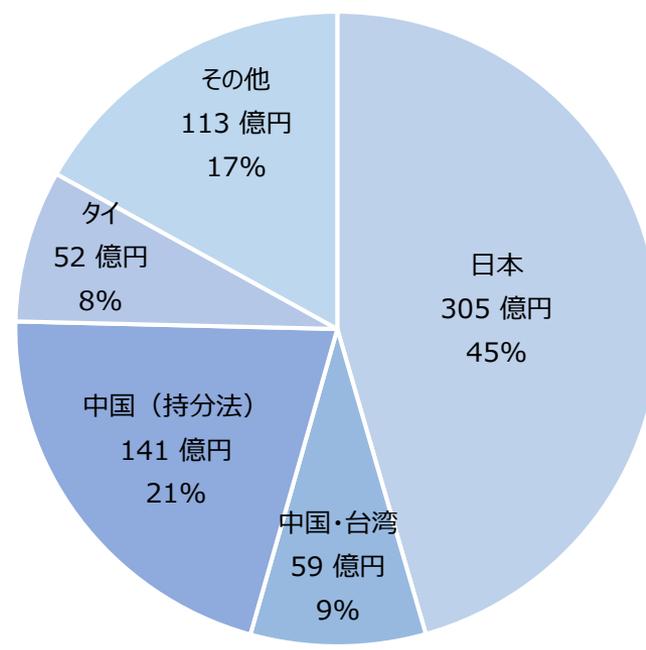
薬品セグメント売上高の所在地別割合

連結子会社のみ



合計529億円

中国合併会社を含む



合計670億円

(注：数値はセグメント間売上高消去前による概算)

営業外損益・特別損益

- 受取利息・受取配当金に加えて、国内及び中国の関連会社に対する持分法による投資利益及び受取技術料などを計上した結果、経常利益は16,625百万円となりました。
- 特別利益945百万円（うち固定資産売却益536百万円）、特別損失942百万円（うち固定資産除売却損682百万円）などを計上した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は9,973百万円となりました。

(単位：百万円)

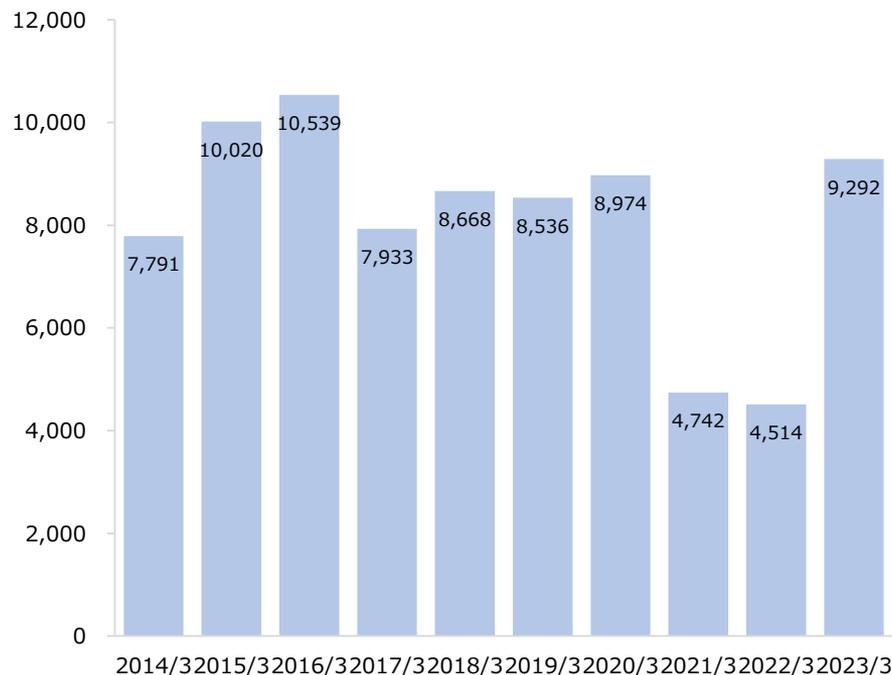
	2022/3	2023/3	増減
営業利益	13,370	12,668	-702
営業外収益合計	4,242	4,685	+442
受取利息	348	427	+79
受取配当金	480	556	+75
受取技術料	576	638	+62
持分法による投資利益	913	983	+70
その他	1,923	2,078	+154
営業外費用合計	610	728	+118
支払利息	30	19	-11
その他	579	709	+129
経常利益	17,003	16,625	-378
特別利益	287	945	657
特別損失	1,445	942	-503
税金等調整前当期純利益	15,845	16,628	
法人税等	4,403	4,465	61
非支配株主に帰属する当期純利益	2,394	2,189	-205
親会社株主に帰属する当期純利益	9,046	9,973	926

→ 中国・台湾地域からの収益

	2022/3	2023/3	増減
営業利益	1,265	1,065	-200
受取技術料	209	236	+27
持分法利益	386	466	+80
合計	1,861	1,767	-94

設備投資の状況(有形及び無形固定資産の増加額)

(単位：百万円)



総合技術研究所の拡張 (2025年 開所予定)

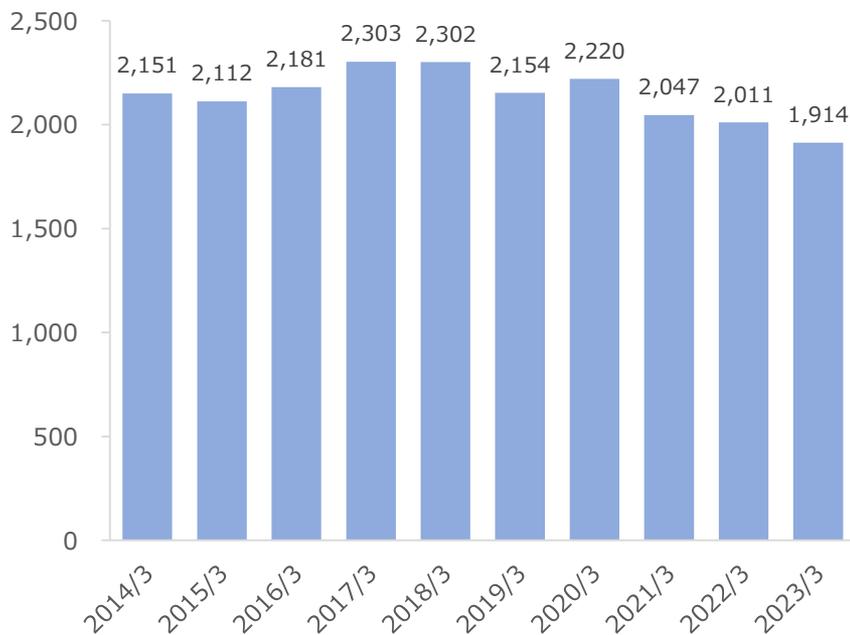


(注) 計画段階のイメージ図

- 2023年3月期は、各国で行動制限が緩和され、社会経済活動の正常化が進展したことにより、設備投資は概ねコロナ禍前の水準まで回復。
- 2024年3月期以降は、新規分野開拓に向けた総合技術研究所の拡張、成長分野への戦略的先行投資（EV、電子・電気、医療など）、国内工場のリニューアルによる生産性向上など、収益基盤の強化と将来の成長のための設備投資を継続実施。

研究開発の状況

(単位:百万円)



機能(例)	用途(例)
放熱⇔遮熱	エンジン部品、ヒートシンク、ルーフ材等
絶縁⇔導電	モーター部品、電磁波シールド材、電装材等
接着⇔非粘着	ゴム・樹脂-金属複合材、シール材、ラミネート材
親水⇔撥水、撥油	熱交換器、防汚壁等
低摩擦⇔高摩擦	パワートレイン、クラッチ、スライドレール等
硬化⇔軟化	摺動部品、塑性加工部品等
錆安定化⇔補修防錆	耐候性鋼材、建材関係の補修材
その他	耐指紋鋼板

あらゆる素材の表面に
多様な機能を付与

- 総合技術研究所には130名超が在籍しており、約20億円を継続的に研究開発に投資
- 環境対応型製品の開発(クロムフリー、りんフリー、スラッジ削減、廃液処理負担軽減など)
- 当社コアテクノロジーを利用し、金属防錆処理以外の様々な技術開発
- EV部品向けの製品・サービスの開発(導電・絶縁、耐摩耗、耐熱、低歪などによるエネルギー効率向上など)
- 医療機器など新規分野への進出

2023年2月に、第一種医療機器製造販売業を取得

連結貸借対照表

(単位：百万円)

<主な増減>

	2022/3	2023/3	増減	
流動資産	126,258	128,576	+2,318	現金預金の増加 +927
固定資産	102,724	107,957	+5,232	設備投資による増加 +9,292
有形無形固定資産	60,511	64,977	+4,465	減価償却による減少 -5,927
投資その他の資産	42,212	42,980	+767	投資有価証券勘定の減少 -524
資産合計	228,982	236,534	+7,551	
流動負債	31,599	30,693	-906	未払法人税等の減少 -853
固定負債	9,709	9,448	-261	
負債合計	41,309	40,141	-1,167	
純資産合計	187,673	196,392	+8,718	利益の計上による増加 +9,973
株主資本	147,736	150,419	+2,682	配当による減少 -5,487
その他包括利益	12,557	15,852	+3,294	自己株式の取得 -1,845
非支配株主持分	27,379	30,120	+2,741	その他有価証券評価差額金 -376
負債純資産合計	228,982	236,534	+7,551	為替換算調整勘定 +4,228
自己資本比率	70.0%	70.3%		

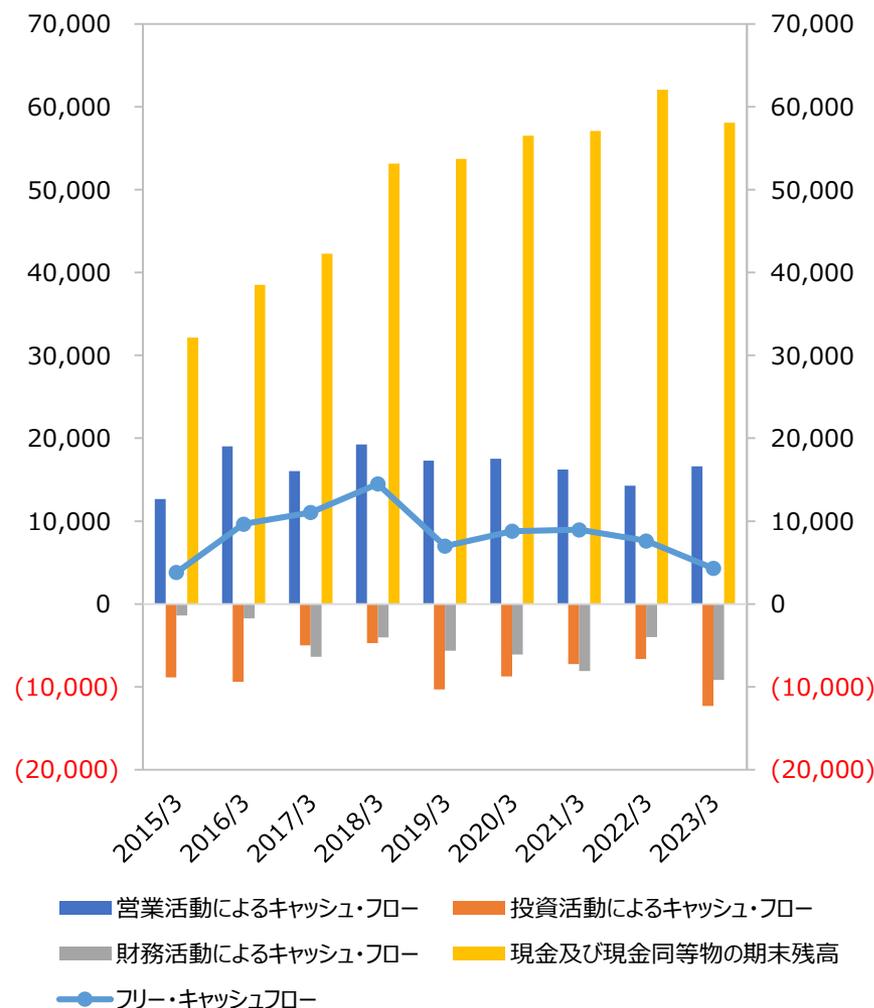
※自己資本比率 = (純資産合計 - 非支配株主持分) / 負債純資産合計

➤ 自己資本比率は安定的に推移

連結キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	2022/3	2023/3
営業活動によるキャッシュ・フロー	+14,281	+16,608
税金等調整前当期純利益	+15,845	+16,628
減価償却費	+5,912	+5,927
その他	-7,476	-5,946
投資活動によるキャッシュ・フロー	-6,655	-12,300
有形固定資産の取得による支出	-4,232	-9,607
その他	-2,422	-2,692
財務活動によるキャッシュ・フロー	-4,105	-9,158
配当金の支払	-3,242	-5,613
被支配株主への配当支払	-727	-1,173
自己株式の取得による支出	-11	-1,845
その他	-147	-526
現金及び現金同等物に係る換算差額	+1,455	+864
現金及び現金同等物の増減額	+4,975	-3,985
現金及び現金同等物の期首残高	57,108	62,083
現金及び現金同等物の期末残高	62,083	58,098



- 税金等調整前当期純利益は増加も、設備投資の増加、配当金の支払い及び自己株式の取得により、現金及び現金同等物の期末残高は減少
- フリー・キャッシュ・フロー（「営業キャッシュ・フロー」－「投資活動によるキャッシュ・フロー」）はプラスで推移

2024年3月期 業績予想

(単位：百万円)

項目	2023/3 実績	2024/3 予想	増減	増減率
売上高	119,177	125,000	+5,822	+4.9%
営業利益	12,668	14,500	+1,831	+14.5%
経常利益	16,625	18,000	+1,374	+8.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	9,973	10,500	+526	+5.3%
期中平均レート (USD)	131.43円	132.00円		

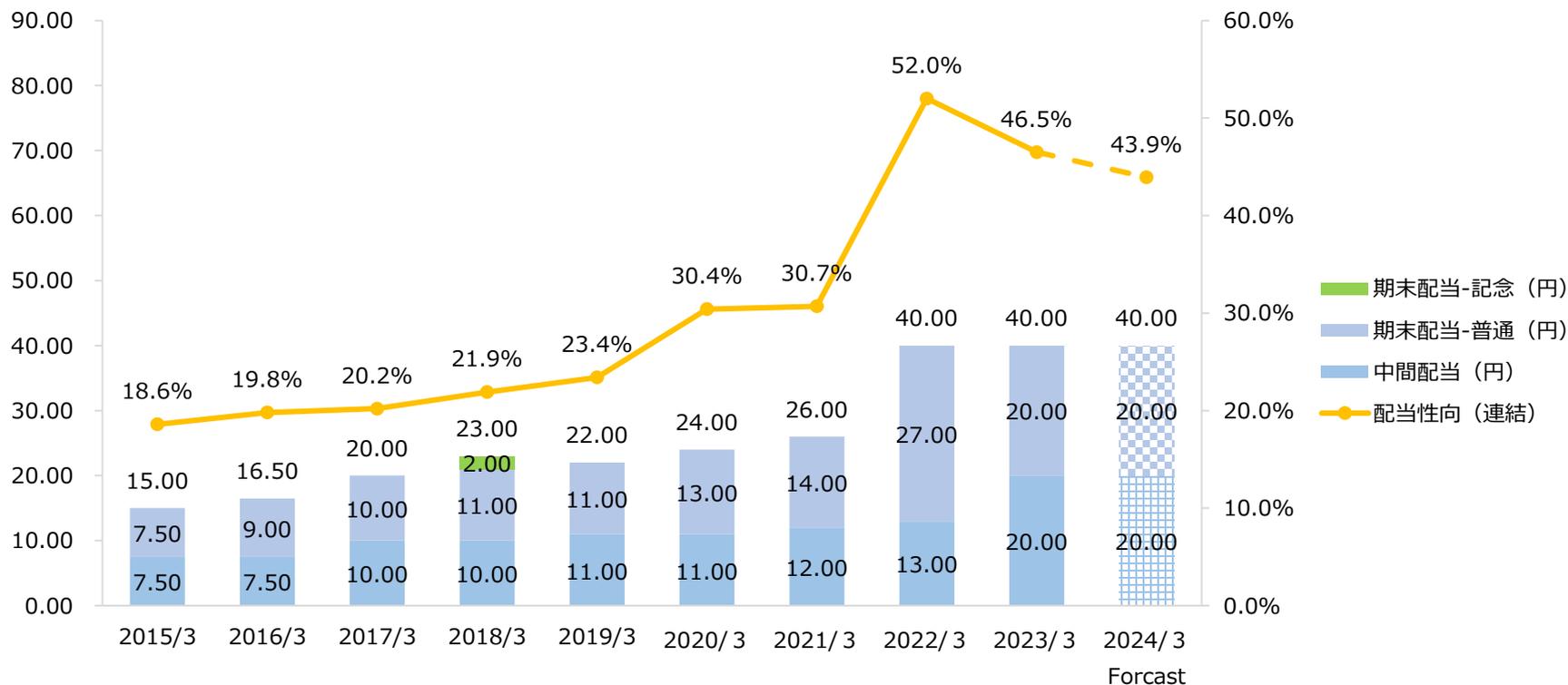
➤ なお、上記は、新興国通貨が、USDに連動することを想定しております。

配当方針と株主還元

- 安定的かつ継続的に配当を行うとともに、内部留保の有効活用によって株主価値を向上
- 配当については、業績動向、将来の事業展開に必要な内部留保の水準等を総合的に勘案し、連結配当性向30%程度を目安に決定

なお、成長のための投資資金及び財務基盤の安定性がある程度確保されたと判断し、当面の間は配当方針を上回る配当を実施

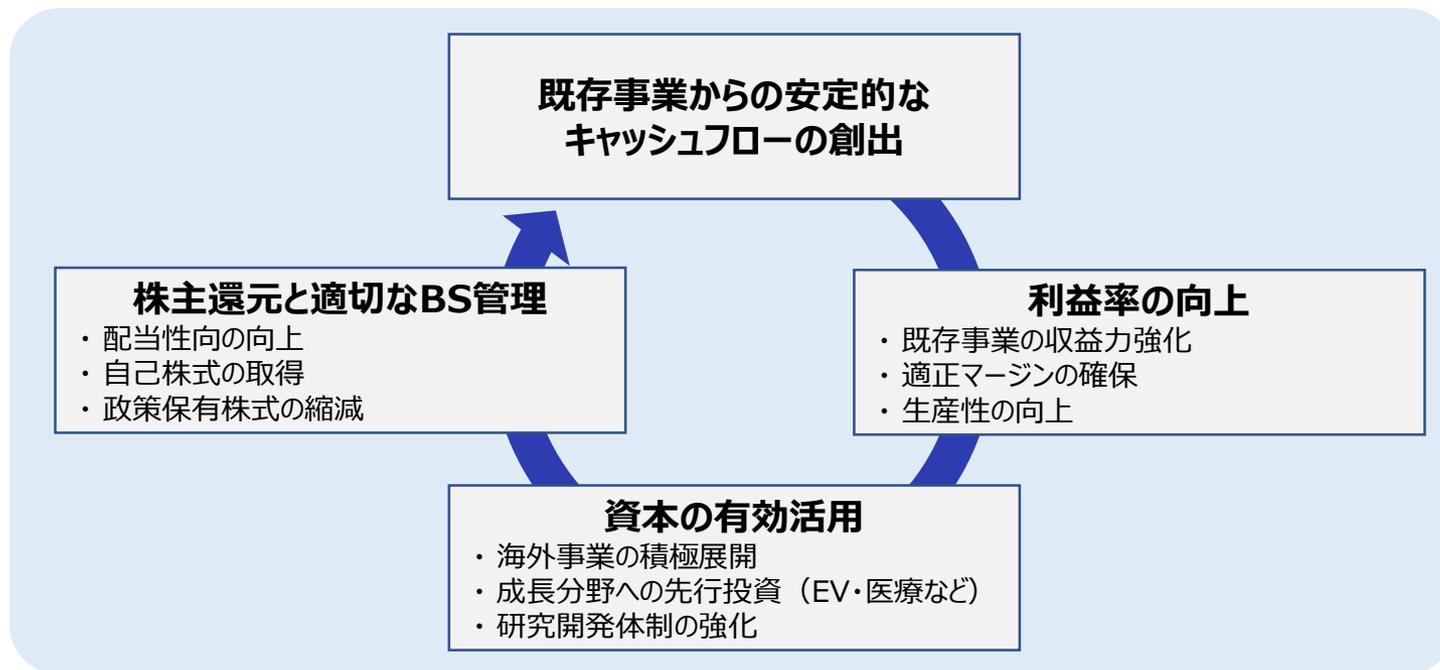
- 将来の ROE など資本効率を高めるために、自己株式取得を機動的に実施



資本効率と企業価値の向上

$$\text{PBR (株価純資産倍率)} = \text{PER (株価収益率)} \times \text{ROE (自己資本比率)}$$

企業価値向上



ROE向上

ROE	収益性	資産効率	財務レバレッジ
利益	利益	売上高	総資産
自己資本	売上高	総資産	自己資本

$$\frac{\text{利益}}{\text{自己資本}} = \frac{\text{利益}}{\text{売上高}} \times \frac{\text{売上高}}{\text{総資産}} \times \frac{\text{総資産}}{\text{自己資本}}$$

中期経営計画の進捗状況と 達成に向けた取り組み

第4次グループ中期経営計画の進捗状況

(単位：百万円)

	第4次グループ中期経営計画期間				A-B 目標との差額
	実績 2022/3	実績 2023/3	A 予想 2024/3	B 目標 2025/3	
売上高	117,752	119,177	125,000	130,000	△5,000
営業利益	13,370	12,668	14,500	16,900	△2,400
経常利益	17,003	16,625	18,000	19,500	△1,500
営業利益率	11.4%	10.6%	11.6%	13%以上	-
経常利益率	14.4%	13.9%	14.4%	15%以上	-
ROE	5.8%	6.1%	-	8~10%以上	-

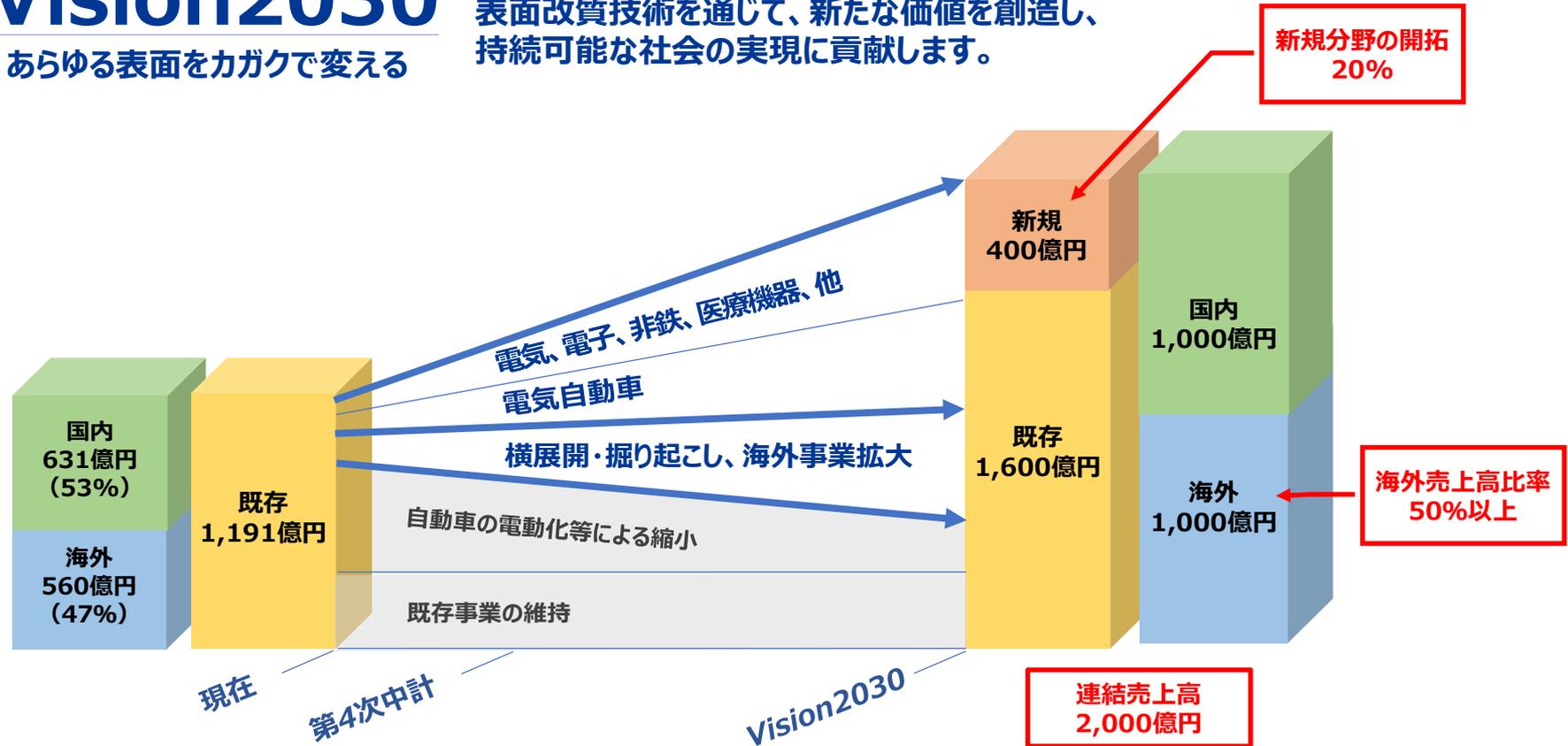
- 売上高は緩やかに回復したが、まだ稼働率の低い拠点もあり、グローバルに営業活動を強化
- 原材料価格や光熱費の上昇などの影響により、目標利益率を大きく下回っており、適正なマージンを確保するための値上げ活動の推進や生産性の向上を強力に推進
- 持続的成長のための基盤作りに向けて、新規分野開拓のための研究開発体制の強化、海外事業の拡大のためのグローバル人材の採用と育成を推進
- ROE向上に向けて、利益率の向上への取り組みを推進するほか、自己株式の取得など、適切なバランスシート管理を実施

Vision2030実現に向けた基盤作り

Vision2030

あらゆる表面をカガクで変える

表面改質技術を通じて、新たな価値を創造し、持続可能な社会の実現に貢献します。



新規分野開拓に向けた
研究開発の強化

+

海外事業の拡大と
グローバル研究開発体制
の強化

+

環境対応製品
の開発・販売

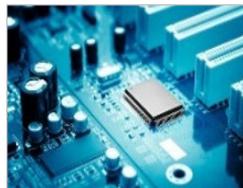
新規分野開拓に向けた研究開発の強化

■ EV、電子・電気、医療機器など、今後、成長が見込まれる分野に対応する薬剤及び加工技術の開発と拡販

- 総合技術研究所を拡張（2025年開所予定）し、新規分野の開拓に向けて研究開発体制を強化。
- EV化に対応した技術開発（導電性や絶縁性の付与、耐摩耗性や耐熱性の向上、より歪の少ない熱処理）や自動車次世代技術への技術開発（防眩処理、異材接合など）を強化。
- 医療機器のニーズに沿った技術開発（防汚処理、親水処理、防曇処理など）を推進。2023年2月に、第一種医療機器製造販売業を取得。高度管理医療機器（クラスⅣ）への当社技術の適用も含め、研究開発体制を更に強化。
- お客様の原料に、当社が有する密着性向上技術などを適用して、付加価値を高めるなど、異業種とのコラボレーションも積極的に実施。衣食住関連や化粧品など、あらゆる分野へ当社の表面処理技術を提供。
- SDGsを意識した循環型経済に貢献できる3R技術の開発。
- 新規事業シーズの発掘。



EV



電子・電気



医療機器



絶縁性・耐熱性向上



電気メス



抗ウイルス・抗菌スプレー

海外事業の拡大とグローバル研究開発体制の強化

- ローカルニーズに適合した迅速な技術開発
- 顧客に密着した技術サポート体制の整備
- 国内外の人材交流の活性化によるグローバル人材の育成
- ローカルスタッフの採用と育成の強化
- 非日系企業への営業活動の強化

Think Globally & Act Locally

パーカー表面処理技術(上海)有限公司



総合技術研究所の拡張
(2025年 開所予定)



※イメージ図



パーカー・サーフェステクノロジー・アジアパシフィック
(タイパーライジング・ハマラート工場内)

環境対応製品の開発・販売

地球レベルでの環境保全への積極的な取り組みを経営の最重要課題として捉え、環境対応型製品の開発と拡販に積極的に取り組みます。



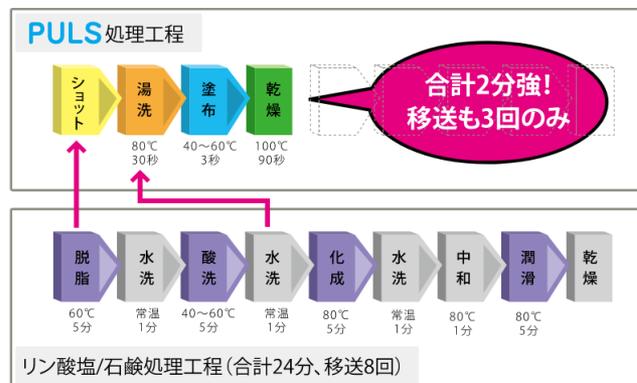
- リン酸鉄・リン酸亜鉛に代わるジルコニウム表面処理剤。りん・ニッケル・マンガンを含まず、スラッジ発生量を1/10以下に削減。
- また、従来のリン酸亜鉛処理剤との比較において、LCAベースでのCO2削減にも貢献。

※リン酸亜鉛を100%とした場合の比較



廃棄物ゼロ!! 環境対応塗布型水系一工程

- リン酸塩と金属石鹼に代わる次世代一液型潤滑剤であり、水洗工程削減により水使用量を削減。
- また、低温処理の実現により、お客さまの製造工程におけるCO2排出量削減にも貢献。

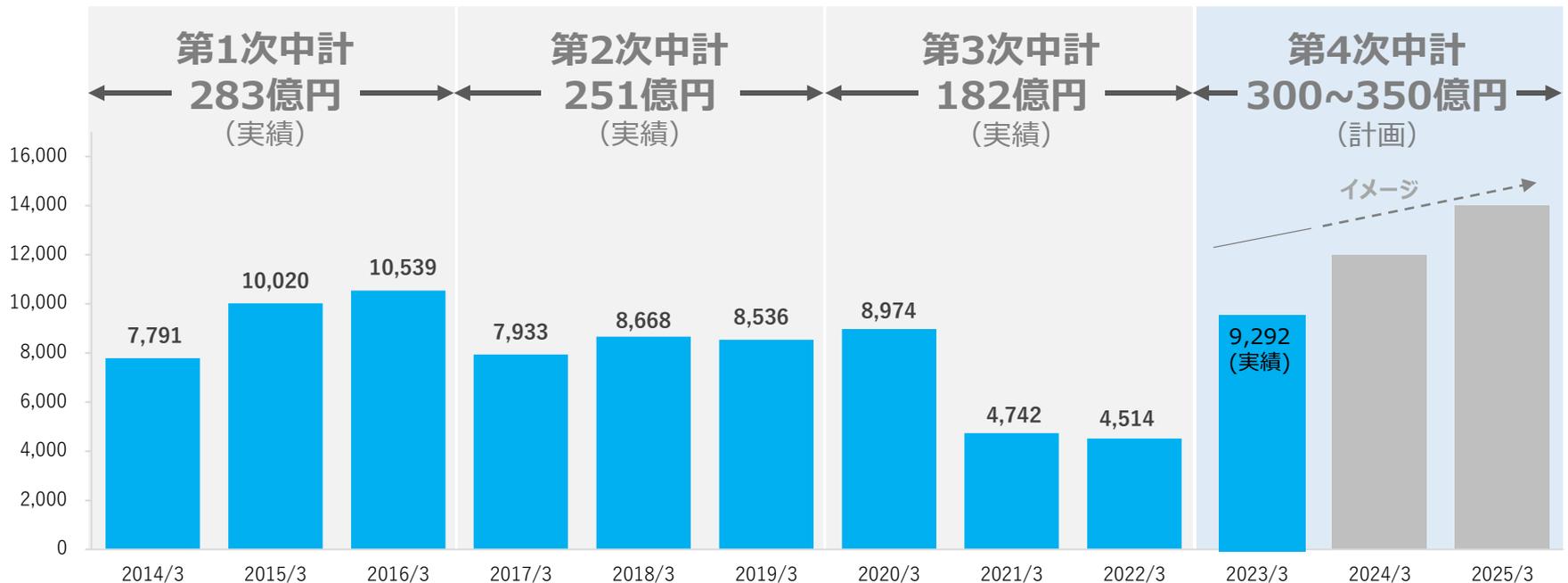


設備投資計画

➤ 通常投資(維持・更新)に加えて、収益基盤の強化と将来の成長のための設備投資を実施。

- ✓ 研究開発体制の強化を目的とした総合技術研究所の拡張（総額約70億円）
- ✓ 成長分野への戦略的先行投資（EV、電子・電気、医療など）
- ✓ 国内工場のリニューアルによる生産性向上
- ✓ 海外事業拡大に伴う新規投資
- ✓ グループITシステムの更新・統一及びDX推進のための投資
- ✓ M&Aについても、既存及び新規の両分野で探索（設備投資とは別枠）

(単位：百万円)



当社グループの重要課題への取り組み

持続可能な社会の実現に向けて、重要課題への取り組みをグループ全体で推進

重要課題 (マテリアリティ)	主な取り組み
1 表面改質技術による豊かな社会の創出	<ul style="list-style-type: none"> ●環境負荷低減ニーズに対応した製品の開発・販売 ●電気自動車向けの製品の開発・販売 ●自動車・鉄鋼以外の新規市場への表面改質技術の適用拡大
2 高付加価値の製品・サービスを世界のお客さまに	<ul style="list-style-type: none"> ●金属防錆処理以外の分野における研究開発の推進 ●SDGsを意識した製品・サービスの開発 ●高品質な製品・サービスを提供するための品質管理及び品質保証体制の強化
3 現場で働く人たちの安心・安全衛生確保	<ul style="list-style-type: none"> ●安全衛生環境活動のグループレベルでの推進 ●労働災害及び交通事故ゼロへの取り組み ●危険有害業務の削減や作業環境改善への継続的な取り組み
4 多様な価値観を尊重し“力”に変えられる企業文化の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ●女性・障がい者・外国人・中途・シニア等の採用促進 ●女性管理職比率の向上 ●多様な人材が活躍できる働き方、職場環境の整備
5 持続可能な社会の実現に向けた責任ある対応	<ul style="list-style-type: none"> ●製品含有化学物質管理の徹底 ●グリーン調達方針のサプライヤー100%順守、エネルギー原単位削減への継続的な取り組み ●複社購買や事業継続計画(BCP)による安定調達及び安定供給への取り組み推進
6 誠実な企業であり続けるための継続的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ●グループガバナンス強化に向けた各社重要規程等の標準化 ●コンプライアンスに係る教育と啓発活動へのグループ全体での継続的な取り組み ●全てのステークホルダーとの緊密な関係の構築と協働

持続可能な開発目標(SDGs : Sustainable Development Goals)達成に貢献

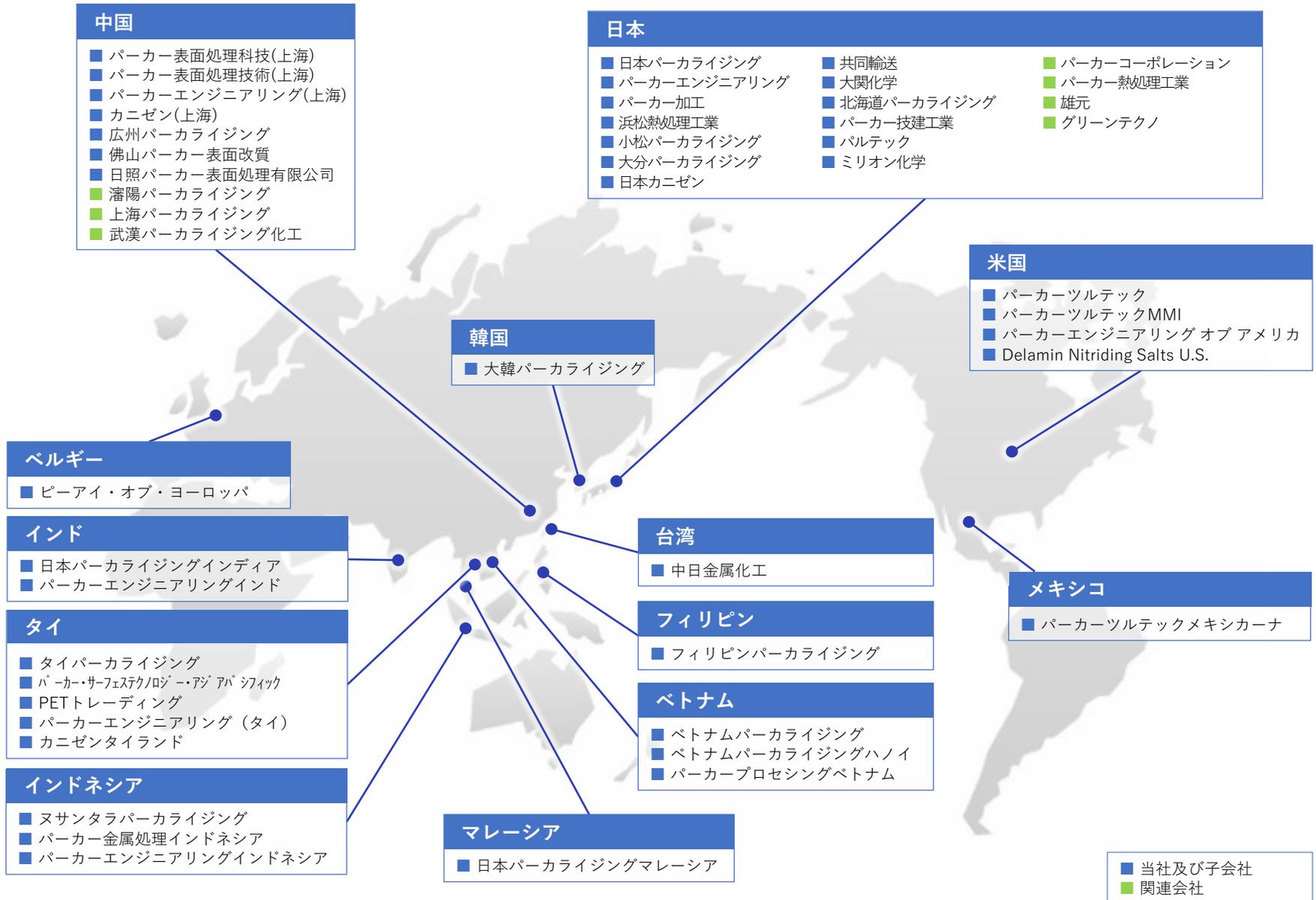


(参考) 業績ハイライト

(単位：百万円)

	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3	2021/3	2022/3	2023/3
売上高	109,569	114,840	129,207	119,028	99,918	117,752	119,177
営業利益	16,934	17,984	17,023	12,601	10,681	13,370	12,668
経常利益	18,779	20,750	20,130	15,723	14,197	17,003	16,625
親会社株主に帰属する当期純利益	12,228	12,721	11,424	9,449	9,999	9,046	9,973
売上高営業利益率	15.5%	15.7%	13.2%	10.6%	10.7%	11.4%	10.6%
売上高経常利益率	17.1%	18.1%	15.6%	13.2%	14.2%	14.4%	13.9%
総資産経常利益率	9.7%	10.0%	9.2%	7.2%	6.5%	7.6%	7.1%
自己資本利益率 (ROE)	10.2%	9.7%	8.2%	6.7%	6.8%	5.8%	6.1%
自己資本比率	62.5%	62.9%	64.2%	66.1%	68.8%	70.0%	70.3%

(参考) 主要関係会社一覧 (2023年3月31日現在)



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、a) 経済状況、b) 為替レートの変動、c) 製品競争力、d) 法的規制、e) 知的財産保護の限界などが含まれます。ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載されている情報は、投資勧誘を目的にしたものではありません。投資に関するご決定は、ご自身のご判断において行うようお願い致します。

VISION P 2030

あらゆる表面をカガクで変える